

2018年New



東京都
福石歯科医院
吉野 弘三 先生

「単なるコンポジットレジン修復」 ではないこれからの審美修復

光重合型コンポジットレジン(以後、CR)は、現在多くの製品が販売され、とくにナノフィラーで構成された審美性や研磨性などが優れたCRが主流になりつつ

ある。また、MIコンセプトでのう蝕治療においても、CRの活用性は先生方も認識していると思う。しかし、CR修復で難しいのは、充填した部位をいかにわからないように修復するかという点であり、とくに単一色のペーストで充填の際、術前のシェードテイクではマッチしていても、光照射後の充填箇所やマージン部の色調が浮いた感じなど色調の再現が難しい。これらの原因は、う蝕除去後の歯質のマージンが透明感を有するエナメル質にあるため、CRと歯質、隣在歯との移行的な色調の調和ができていないことによるものと考えられる。

ハーモナイズは、配合されているナノフィラーによって天然歯の光拡散性や透過性を再現し、歯質、隣在歯との移行的な色調の調和が可能である。構成する3種類のペーストをブレミスと比較した場合、より高い透明性を有し、エナメル色充填後のトランスルーセントがとても自然にマッチする。最表層に使用するトランスルーセントのペーストの使用感は若干柔らかく、平滑面に移行的な充填が必要となる歯冠歯頸部(図1-2)や前歯部に使用しやすい。また、臼歯部咬合面(図3-5)において、小窩裂溝など複雑な形態を付与しやすい

稠度により、美しい咬合面形態を再現することができる。単一色のペーストで充填するよりも多少時間は掛かるが、症例に合わせて3種類のペーストを組み合わせることで、より審美性の高いCR充填を行うことができるため、患者さんの満足度は良好である。また、充填の際はラバーダム防湿を行うことをお勧めする。これによって術野が明確となり、煩雑な行程の時間短縮につながる。また、呼吸や唾液によるCRの物性低下を避けることもできるので、患者さんのためにも必ず行っていただきたい。

当院では患者さんへの説明用スライド(図6)を用意している。歯は白いものであるという固定観念から、天然歯に存在する透明性に気がついていない患者さんがほとんどである。天然歯の特徴を知っていただくことで、単に白い詰め物をする治療ではないということを理解していただき、より審美性の高い修復治療が提供できるということをお伝えしている。

私は新しいCRを使用する際、まずは顎歯模型上でペーストの硬さ、操作時間、色調、透明性、無影灯による影響などを十分に把握し、臨床で使用するようにしている。「単なるコンポジットレジン修復で?」と思われる先生もいらっしゃるかもしれないが、ハーモナイズのような今のCRIは物性や審美性がより進化しているということを知っていただきたい。

う蝕治療において、自信を持って患者さんに光重合型コンポジットレジンでの審美修復を勧めることができるこれからの歯科医療に期待している。



1 44類側平滑面に大きめのCR修復がされており、色調の違いとマージン部の劣化が認められる。



2 歯頸部から切端側に厚みを変えながらエナメルA3を充填後、表層にトランスルーセントのクリアを一層充填。これによって内面の色調を生かしながら透明感のあるコントラストが表現できる。



3 17咬合面小窩裂溝部にう蝕が認められる。



4 オブチダムとソフトクランプを用いて防湿後、罹患歯質の除去を行なった。う窩が深いために積層充填が必要であることがわかる。



5 象牙質内面の色調を一定させるため、デンチンA3.5をベース後、エナメルA3で小窩裂溝などの形態付与を行い、表層にトランスルーセントのクリアを一層充填。エナメルペーストの色調が裂溝に向かって反映されており、天然歯の色調を再現できている。



6 患者さんのために当院で使用しているテキストで、天然歯の特徴を表現してある。